

| | | | | | |
|----------|---|----|-----------|----|----|
| 氏名 | 山田牧子 | 部署 | 看護学科基礎看護学 | 職名 | 助教 |
| 研究分野 | スピリチュアルケア 死生学 ケアの倫理 | | | | |
| 学位 | 修士（人間福祉学） | | | | |
| 学歴 | 2014年独立行政法人大学評価機構学位授与機構終了（看護学） 2016年聖学院大学大学院人間福祉学研究科修士課程修了（人間福祉学） 2022年3月東洋英和女学院大学大学院博士課程単位取得後満期終了退学（死生学） | | | | |
| 経歴 | 2012年～2019年 共済学院 日本保健医療大学保健医療福祉学部看護学科助手 2021年4月～埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教 | | | | |
| 所属学会（役職） | 日本臨床死生学会 日本スピリチュアルケア学会 日本保健医療行動科学会 | | | | |

【2022年度実績】

| | | | | | | | |
|--------------|---|-------|------|---|---------------------------------|--------|---------|
| 1. 研究業績 | | | | | | | |
| (1) 著作 | | | | | | | |
| | 著作の名称 | 単・共 | ISBN | 発行所、全ページ数 | 著者、編者名 | 発行等年月 | |
| 1 | 該当なし | | | | | | |
| (2) 論文 | | | | | | | |
| | 論文の名称 | 単・共 | 査読 | IF対象誌 | 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ | 著者、編者名 | 発表等年月 |
| 1 | なる成長とケア ー東日本大震災で被災者支援に向けたF氏のライフストーリーの分析ー | 単著 | あり | | スピリチュアルケア 研究 Vol.006 1-13 | 山田牧子 | 2022年8月 |
| (3) 学会発表 | | | | | | | |
| | 学会発表の演題 | 単・共 | | 学会名、開催都市 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 | |
| 1 | 該当なし | | | | | | |
| (4) その他 | | | | | | | |
| | 名称 | 単・共 | | 発表場所等 | 発表者（発表者は○印） | 発表等年月 | |
| 1 | 該当なし | | | | | | |
| 2. 競争的資金等の研究 | | | | | | | |
| | 競争的資金等の名称 | | | 研究名 | 研究代表者・研究分担者の別 | 研究期間 | |
| 1 | 該当なし | | | | | | |
| 3. 教育業績 | | | | | | | |
| (1) 講義 | | | | | | | |
| | 講義の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要（教育内容・方法等において工夫した点） | | | |
| 1 | 看護方法Ⅰ | | 16 | 科目責任者と協力し、技術演習が効果的になるよう事前検討を行い、技術演習の指導をおこなった。学内演習は学生の探求心を引き出せるよう意識しながら関わった。 | | | |
| 2 | 看護方法Ⅱ | | 16 | 科目責任者と協力し、技術演習が効果的になるよう事前検討を行い、安全安楽な看護の基本技術について探求し学習できるように留意した。 | | | |
| 3 | 看護方法Ⅲ | | 17 | 科目責任者と協力し、授業が円滑に進むようにサポートした。安全安楽な看護の基本技術について探求できるよう演習をサポートした。 | | | |
| 4 | 看護方法Ⅳ | | 18 | 科目責任者と協力し、授業が円滑に進むようにサポートした。清潔操作や安全など実際の場面を想像しながら演習できるよう、言葉かけをした。 | | | |
| 5 | 看護方法Ⅴ | | 19 | 科目責任者と協力し、授業が円滑に進むようにサポートした。対面のグループワークなどに参加して討議が活発になるよう学生指導を行った。 | | | |
| 6 | 看護管理 | | 8 | マネジメントプロセスや、看護職に関連する法令、キャリア開発など管理に関する内容について、協同学習の演習方法を活用したグループ学習が活発に行われるようサポートをした。災害看護では講義を担当し、グループワーク演習でシュミレーションを行い、いつ起きてもおかしくない災害時の看護実践をイメージできるように工夫した。 | | | |

| | | | | |
|----------------------|------------------|--------|--|--|
| 7 | 看護学原論 | | 30 | 看護の基本概念、看護の歴史、医療制度、環境、他職種連携等についてグループワークで深めることが出来る様、サポートした。学生が使用できるよう、ICTの環境を整えた。また看護覚え書の抄読会では、主体的に探究できるよう、言葉かけを工夫した。 |
| 8 | 看護過程論 | | 16 | 紙上事例を使用し、ヘンダーソンの理論をもとに看護過程の展開についてグループワークを行い、学習のプロセスで理解が進むようサポートをした。 |
| (2) 演習 | | | | |
| | 演習の名称 | 科目責任者 | コマ数 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) |
| 1 | 該当なし | | | |
| (3) 実習 | | | | |
| | 実習の名称 | 科目責任者 | 学外実習：期間 学内実習：コマ数 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) |
| 1 | ヒューマンケア体験実習 | ○ | 学内実習：22コマ | 実習メンバー32名を担当し、グループワークでのディスカッションの中で、ヒューマンケア実践者として、他者の価値観を手掛かりにして自分の価値観について振り返り、修正し、ケア実践者としての自らの価値観を形成していけるようグループ活動をサポートした。(臨地実習は中止、対面でGWを実施) |
| 2 | 総合実習 | | 学外実習：4月～7月 | 4年次生を対象に、事前学習(学内実習)・事後学習(学習成果発表会)を含めた実習指導を行った。 社会で活躍するに当たって自己の課題を明確にし、課題に取り組めるよう、自己課題に取り組めるよう病棟との調整を行った。チームとして看護を継続することについて学べるよう、学生チームを作って受け持ち看護活動を行えるよう工夫した。 |
| 3 | 基礎看護学実習Ⅰ | | 学外実習：1月～2月 | 見学実習であり、見た内容について十分に解釈し、考察できるようにコメントしながら実習をすすめた。初めての实習で、緊張もあったが、指導者に助言をもらうなど、学生自身で働きかけることが出来るよう、サポートした。 |
| 4 | 基礎看護学実習Ⅱ | | 学外実習：9月～10月 代替実習学内：12月～2月 | コミュニケーションの目的を考えながら関わる事が出来る様助言し、人間関係を構築し、情報収集、アセスメントができる様サポートした。 カンファレンスを活用し、討議の中でケアについて考えや方法を深めていけるようサポートした。 Covid-19で病棟実習に参加できなかった学生を対象に、電子カルテシステムを使い、模擬病棟での代替実習を行った。経時的な変化に合わせて計画を修正し、できるだけ病棟での実習に近い学習ができる様サポートした。 |
| (4) 論文指導 | | | | |
| | 対象 | 期間 | 主指導・副指導の別及び指導人数 | |
| 1 | 卒業論文 | 8月～12月 | 主指導 | 名 副指導 4名 |
| (5) その他 | | | | |
| | 名称 | 期間 | 概要 (教育内容・方法等において工夫した点) | |
| 1 | 該当なし | | | |
| 4. 社会貢献活動 | | | | |
| (1) 講演会、研修会、公開講座等の講師 | | | | |
| | 講演会、研修会、公開講座等の名称 | 主催 | 講演、研修、公開講座等のテーマ | 開催年月 |
| 1 | 模擬患者養成講座入門編 | 4月～3月 | 医療保健福祉および埼玉県立大学における教育への理解を深める。また、自己の健康に資する機会を得ることを受講の目的の第一とする。 本講座を受けた後に、本学の学生の教育に関心を持ちながら、併せてシニア世代の活躍の場を知ることで、社会活動性が増え、自尊心が高く保たれ、健康な生活につながることを狙いとする。 | 2022年4月～3月 |

| | | | | |
|---------------------------|----------------|--------------|--|------------|
| 2 | 模擬患者養成講座継続編 | 4月～3月 | 医療保健福祉への理解を深め、自己の健康に資する機会を得ることを受講の目的の第一とする。さらに、本講座を受けながら、本学の理学療法学科の授業に模擬患者として参加するとともに、看護学についても学ぶ | 2022年4月～3月 |
| (2) 国、自治体、学術団体等における委員等 | | | | |
| | 国、自治体、学術団体等の名称 | | 委員等の名称 | 任期 |
| 1 | 該当なし | | | |
| (3) ジャーナリズムでの発言 | | | | |
| | メディア等の名称 | | 内容 | 年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| (4) その他 | | | | |
| | 項目 | 相手方等 | 内容 | 期間 |
| 1 | 地域貢献活動 | 市民活動団体春日部ひろば | 不登校の居場所支援 キャリア支援 支援者のアドバイザー | 2022年4月～3月 |
| 5. 学内運営 | | | | |
| | 項目 | | 内容 | 期間 |
| 1 | 学科等における委員会等 | | カリキュラム運営検討委員会 | 2022年4月～3月 |
| 2 | 学科等における委員会等 | | SPU学会総務委員 | 2022年8月～3月 |
| 3 | 大学広報活動 | | オープンキャンパス | 2022年9月 |
| 6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの） | | | | |
| | 受賞名 | | 主催 | 受賞年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 7. 特許の取得 | | | | |
| | 特許名 | | 特許番号 | 登録年月 |
| 1 | 該当なし | | | |
| 8. 特記事項 | | | | |
| 1 | 該当なし | | | |